

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や手術の記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテ記録や手術記録を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

Chemosurgical treatment（モーズ軟膏：院内製剤）の臨床応用について

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院 形成外科

【研究責任者】 森 秀樹（形成外科 講師）

【研究代表者】 森 秀樹

【研究の目的】

腫瘍が大きくなって皮膚から露出してしまうと、腫瘍からの出血がおこるようになり、なかなか止血できなくなってきました。また浸出液（しんしゅつえき）やそれに伴う臭いも強くなってきます。そのため腫瘍の治療のために一般的には使用されていないモーズ軟膏を使用することを考えました。

【モーズ軟膏について】

1936年にモースが考案した塩化亜鉛を主成分とする軟膏です。一般的には使用されていない軟膏ですが、以前より海外を中心に使用されていました。軟膏を塗った部位が硬化して、その硬化した部位を切除するというのを繰り返して腫瘍を縮小させるために使用していました。今回この軟膏を腫瘍の治療目的に使用することを考えています。今回、日本で入手できる材料で作製したモーズ軟膏を作製し使用する予定です。

現在日本ではモーズ軟膏を使った治療の報告は多くあり、多くの施設で使われています。

【研究の方法】

- ①まずモーズ軟膏を作ります。（当院薬剤部にて）
- ②その軟膏をガーゼにのぼして腫瘍に塗付します。
- ③適宜ガーゼ交換し腫瘍の色、サイズ、ガーゼ汚染の程度、副作用の有無を観察し、一般的血液検査や亜鉛濃度の測定を行うこともあります。
- ④硬化した腫瘍をメスやハサミで切除し、腫瘍が無くなるまで繰り返します。
- ⑤効果が1週間以内に見られない場合中止します。

【本治療法によって予期される効果および副作用】

予期される効果として、外用を始めて数日で腫瘍の硬化、滲出液・出血の減少がみられ、硬化した腫瘍は痛み無く切除でき腫瘍の縮小が期待できます。

副作用として、外用部の疼痛、そう痒など刺激反応、アレルギー反応などが考えられますが使用するのが主として塩化亜鉛であるため稀に高亜鉛血症に伴う中毒症状(腹痛、下痢、発熱、神経症状)などが起こる可能性があります

【個人情報の取り扱い】

本研究は「個人情報保護法」(平成 17 年 4 月 1 日施行)および「疫学研究に関する倫理指針」(文部科学省・厚生労働省 平成 19 年 8 月 16 日改正)を遵守しています。情報は本登録のため新規作成した「日本形成外科学会疾患登録アプリケーション」で入力・暗号化、復号・集計されますが、高度の暗号化機能を有し、犯罪的行為等で情報メディアが第三者の手に渡っても内容解読は不可能です。

また、姓名、生年月日などの個人情報は登録情報に含まれず、研究対象者である患者さんが不利益を被ることはありません。

< 試料・情報の管理責任者 >

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 中岡 啓喜

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-096-5350